



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

徳とくを積つんで

運うんを強つよくしましよう

人間にんげん学がくを学まなぶ月刊誌げつかんしと銘打めいった『致知ちち』という雑誌ざっしがあります。その4月号がつごうが「運うんと徳とく」という特集とくしゅうでした。最初さいしょに次のようつぎに書いてありました。「大分前だいぶんまえになるが、たまたま乗のったタクシーのドライバーから聞いた話はなしである。その人ひとは本業ほんぎょうが葬儀屋そうぎやで暇ひまなときにタクシーの仕事をしごとしているのだった。ある時とき、五十歳さいがらみの一人ひとりの男性だんせいから母親ははの葬儀そうぎの依頼いらいを受けた。その後父親ごちちおやは息子むすこの世話せわになるといふことで、夫婦ふうふで蓄たくわえた1億円えんを息子むすこに譲渡じやうどした。それから一年後ねんごに父親ちちおやが亡なくなった。ところが息子むすこは、『今度こんどは葬儀そうぎをしない。お骨こつだけにしてほしい』という。『あなたは1億円えんを父親ちちおやから譲ゆずられ



たのにどうして葬式を出さないのか』と聞くと、『実はあの1億円は自分で使ったり人に貸したりして、あつという間になくなってしまった』という答えだった。この話が物語るものは何か。徳のない人からはどんな幸運も去っていく、ということだろう

以前、日達上人が「徳のない人が大金を手にとると、身につかないどころか逆に罪を作りながら、そのお金が消えていくものだ」と言われたことがあります。

『大学』にあるように「徳は本なり、財は末なり」ということでしよう。

また、「運・不運」と「徳」というものにはしっかりとした相関関係があるようです。

特集の中には、いろいろな「運と徳」に関する話を書いてありましたが、その中で日本能力開発分析協会会長の西田文郎さんと東洋思想研究家の田口佳史さんの対談



から一つ紹介します。

西田文郎さんはビジネスマン、会社の経営者、トップ

アスリートなどの能力開発をしている脳の専門家です。

北京オリンピックで女子ソフトボールチームが金メダル

を取った時にはチームのメンタルトレーナーをしていま

した。何を教えたかというところ、「感謝」を教えたのです。

選手一人ひとりに「感謝すること」を教えたことで、チ

ームが強くなったのです。田口佳史さんは西田さんより

七歳年上で、東洋思想の中でも中国の古典の専門家です。

対談の中で西田さんは「脳幹は『本能の脳』です。こ

こに働きかけることで人間の運は開けます。働きかける

ために7つの方法があり、これを『天運の法則』と呼ん

でいます」と言われています。

その一つ目は「真の親孝行をする」です。お前が自

分の子どもでよかった。生まれてきてくれて本当によか

った」と親に思ってもらうのが真の親孝行だと言います。



二つ目は「先祖の歴史を知る」です。親は2人、その親は4人、十代さかのぼると先祖は1,024人になります。二十代さかのぼると104万8,576人になります。西田さんは「この中の1人でも欠けていたら、今の自分はいない。この104万8,576人が1人も欠けずにつながってきた、この奇跡のような事実に感謝をしましょう」と言われます。

三つ目は「日本の成り立ちを知る」です。紀元前60年に初代の神武天皇が建国を宣言されてから今上陛下まで125代、2679年連続と続く歴史が日本にはあります。そして日本と他国との違いは、代々の天皇が常にご自分のことより国民の安寧、国の繁栄を祈られていることです。天皇はいつも国民のことを考えていてくださいます。毎年8月17日に私は終戦の話をするのですが、その時に昭和天皇が「自分はこの戦争に関する一切の責任を負うものであり、いかなる極刑にも応じる覚悟であ



る。しかしながら国民の窮乏を見るのは耐えがたい。皇室の全財産を差し出すので、国民の衣食住の点のみにご高配を賜りたい」とマツカーサーに言われたということをお話します。こういう国家元首は他の国にはいません。ありがたいことです。このようなことを考え、感じていくと脳の奥から、良いことをしないといけない。正しいことをしないといけないな、と思えてくるのです。これが四つ目の「善と正義」です。

五つ目は「無知の知」です。勉強をしないといけない、と感じることです。勉強をすればするほど人間は、自分は何もわかっていない。無知なんだ、ということ。がわかってきます。かのアインシュタインが「学べば学ぶ程、自分がどれだけ無知であるか思い知らされる。自分の無知に気づけば気づく程、より一層、学びたくなる」と言っています。



昔、美術院の会合で横山大観に挨拶を頼んだところ、大観の第一声は「絵というものはむずかしい」だったそうです。参加者は、大観先生にしてあの心境か、と感心しきりだったということです。アインシュタインも横山大観も、学べば学べ程、もっと学ばなければ、という境地に至ったのでしょうか。アインシュタインはまた次のようなことを言っています。

「学べば学べ程、この世界は奇跡に満ちていることがわかる。神が創られたとは思えない。人間の生き方には二通りしかない。あたりまえと思って生きるか、すべてが奇跡と感じて生きるかである」

六つ目は「天と約束をする」です。良いことをする。正しいことをする。勉学に励む、ということをして天に約束しましうと言うのです。それには亡くなった近い先祖や恩師を思い浮かべて約束をするのです。漠然と天に誓うのではなく、そういう人を思い浮かべて約束をする。



そして、死しんでから、もしその人ひとと会あった時ときには「約束やくそくを果はたしました」と言いえるようにするのです。これを読よんだ時とき、私わたくしも命終みょうじゆうした時とき、御開山上人ごかいさんしやうにんや日達上人にったつしやうにんにもしお会あいすることができたなら恥はずかしくないように、ねぎらっていただけるようにしないとイケないと思おもいました。

最後さいごは「伝承伝達する」です。私達わたくしたちは先祖せんぞから命いのちを受け継ついで生きています。それと同時に、より良よく生きるための知恵ちえや技術ぎじゆつも受け継ついでいます。それを未来みらいの人ひとびとに伝承伝達する役割やくわりがあるということです。法音寺ほうおんじの信仰しんこうをする者ものは特に慈悲とくひ・至誠まこと・堪忍かんにんの三徳さんとくの教おしえを子孫しそんに伝承伝達しなければいけません。

この七つが西田にしださんの言いわれる、脳のうの奥深くおくふかに働はたらきかける「天運てんうんの法則ほうそく」です。次に田口たぐちさんが「運うんと徳とくということを私わたしに教おしえ授さずけてくださったのは、松下幸之助まつしたこうのすけさ



んです」と言われました。田口さんは30代の頃、なかなか仕事（しごと）がなかったそうです。ある時、松下さんの創（つく）られたP H P 研究所（けんきゅうしよ）から「商道（しょうどう）コースという研修（けんしゅう）の講師（こうし）になりませんか」という話（はなし）がありました。仕事（しごと）がなかった時（とき）でしたので、すぐに「ありがたいです」と飛びつきました。打合せ（うちあわせ）の時に「ところで、前の講師（こうし）はどなただったのですか」と聞（き）くと、松下さんだったのです。「松下さんの後に私（わたし）がするのですか。とても無理（むり）ですよ」と言う（い）と、「松下さん自身（じしん）が『次（つぎ）は20代（だい）から30代（だい）の若い人（ひと）にやってももらいたい』とおっしゃっているのです」ということでした。その後（ご）、松下さんに会（あ）うことになりました。その時（とき）、経営（けいえい）の神（かみ）さまに初めてお目（め）にかかるということ（こと）で、「経営者（けいえいしや）の条件（じょうけん）とは何（なん）ですか？」と思（おも）い切（き）って聞（き）いてみたのです。松下さんは「運（うん）が強いこと（こと）や」と言（い）われたそうです。

松下（まつした）さんは口癖（くちぐせ）のように「自分（じぶん）は運（うん）が強い」と言（い）われ



たそうです。この話は長く秘書を務められた江口克彦さんがよく書いておられました。松下さんは「特に二つのことで運が良かった」と言われます。

一つは学歴がなかったことです。松下さんは小学校中退です。お父さんが米相場に手を出して大失敗し、小学校を中退して火鉢屋に丁稚奉公に出されました。それで松下さんは「学歴が全くないので自分は人にもものを聞くのが恥ずかしい。また、素直に聞くのでみんなが教えてくれる。だから学歴がなくてついていた」と言われるのです。

もう一つは、松下さんの家族、親・兄弟で結核で亡くなったという方が多くいることです。松下さん自身も肺炎カタルという病気でよく寝込んでおられました。「これが良かった」と言われるのです。「自分は体が弱かったから、人に仕事を任せることができた。だから会社がどんどん大きくなった。自分がもし健康で何でもやっていた



たら会社は大きくならなかっただろう。だから自分は体が弱くて運が良かった」と言われています。

また、セメント会社でアルバイトをしていた時、沖合にその会社のプラントがあり、そこに蒸気船で運ばれている時、たまたま松下さんの前を通ろうとした人がよけて松下さんにつかまり、二人とも海に落ちてしまいました。その時のことも「運が良かった」と言われています。江口さんが「どうしてですか」と尋ねると、「その時、夏でな、本当に運が良かった。冬だったら死んでいたな」と言われるのです。

あらゆることはどのようなようにも解釈ができるものです。その解釈の方向が肯定的か否定的かの違いです。物事の考え方で運の強さが決まるのかもしれませんが。松下さんはすべてのことに肯定的であることがまず大事だと考え、それを「運が強いことが大事」と言われたのかもしれない。



せん。これは私は、まずは堪忍かんにん、ということだと思いま
す。どんな境遇きようぐうにも一言も不平ふへい不満ふまん、愚痴ぐちを言わないと
いうことです。

田口たぐちさんの話はなしに戻もどります。その後、田口たぐちさんが「運うんを
強つよくするにはどうしたらいいですか？」と真剣しんけんに聞きくと、
松下まつしたさんは「徳とくを積つむことしかない」と言いわれたのです。
さらに「徳とくを積つむとはどういうことですか？」と聞きくと、
「自分じぶんの最善さいぜんをすべての人ひとに對たいして尽つくしきることだよ」
と言いわれたそうです。これは慈悲じひと至誠まことですね。

松下まつしたさんが作つくられた製品せいひんは、これがあつたら世よの中なか
の人ひとが、便利べんりで快適かいてきになるだろうな、というものばかり
です。エジソンが発明はつめいした電球でんきゅうもかなり改良かいりやうされました。
子ども達たちが夜よるも本ほんが読よめるようにしたい。私は小学しょうがっこう校
中退ちゅうたいでろくに勉強べんきやうできなかったけれども、今いまの子こども達たち



にはみんな一生懸命に勉強してもらいたい、という思い
でされたのです。自転車も昔は無灯火で危険でした。そ
こで、みんなの安全を考えて砲弾型ライトを作られたの
です。

今のパナソニックはさまざまな商品を作っていますが、
昔はナショナルと言えば家電でした。冷蔵庫や洗濯機、
掃除機など、みんな主婦のためのものでした。家庭の仕
事をする主婦はみんな楽になりました。当時ソ連の副首
相が松下さんの工場にやってきて見学した後、これ見よ
がしに「私達は労働者を資本家から解放した」と言いま
した。その時、松下さんは「そうですか。私は主婦を家
事から解放しました」と言われました。さすが松下さん
です。

詮ずる所、開運の秘法は、三徳の実行と感謝に尽きる
ような気がします。



御開山会が

5月12日(日)、19日(日)、6月2日(日)の
三日間にわたって開催されます。

三先師・日達上人の御前にて
三徳実行のお誓いをいたしましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

瀬戸布教所	5月9日(木)	大阪支院	5月11日(土)
安城支院	5月18日(土)	高槻支院	5月21日(火)
東京支院	5月25日(土)		